



藤香会だより

第17号
平成26年7月1日発行
発行者
藤香会事務局
092-724-0007
発行責任者
毛屋 嘉明

平成二十六年度の 初めにあたって

藤香会副会長 毛屋 嘉明



今年度は新たな事務局体制の下で例年とおり、草刈ボランティア、法要、勉強会、史跡巡り、忘年会などの藤香会行事を「温故知新」をモットーに継続してまいります。

また、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映を契機としてこれからの時代を担う青少年にも輪を広げた息の長い広報としてインターネット(ホームページ)の内容充実を図ります。

総会では二つの大きな事項が報告されました。

そのひとつは、黒田家墓所が黒田家から福岡市への寄贈です。墓所は昭和二十五年に改葬され、それまでの1/5(約二〇〇坪)に縮小されましたが、平成八年三月に福岡市の史跡に指定されました。しかし、平成十七年の「福岡県西方沖地震」により広大な墓所を囲む一八〇mに及ぶ古風な石積塀は全壊し、墓石、灯籠の倒壊など大きな被害を受けました。そして一年後、福岡市の強力な支援のもとに藤香会会員や関連団体の方々の暖かいご支援により見事に復旧されました。

あれから九年たち、長年の検討事項であった黒田家墓所の寄贈が黒田家と福岡市のご協力とご理解によって実現しました。

ふたつ目は、「如水公四一回御忌法要と顕彰記念イベント」の実施です。三月二十日雨の降る幕前にて従来の仏教式とキリスト教式の法

要が崇福寺若月老師のご理解とご協力により盛大に行われ、引き続き「顕彰イベント」が実施されました。これは会員、関連団体を始め、プロジェクト協議会、協賛企業の方々の絶大な協賛を得て実現したものです。失礼ながら書中をもってご報告とご協賛への御礼をさせていただきます。

平成二十六年度 定期総会開かれる



五月二十四日
五月二十三日
長崎 拓 (土)、鳥飼八幡宮
会務部長
出席 参集殿にて出席会
員一八二名(内出席
席六五名、委任状
提出一一七名)に

よって開催されました。大会の言葉、国歌斉唱に続いて、会員の物故者三名(松井俊規氏、藤金之助氏、尾崎元治氏)に対する黙祷のうち、山崎拓会長の挨拶が終わり、議長に平田善積理事を選出して議事に入りました。

1. 主な決定事項

(1) 会則の改定
今までの会則と藤香会の趣旨や理念など内容には大きな変更はありませんが、条文の整理や言葉遣いを改めました。全体を章立てにしてすっきりし、誰にでも分かる会則となりました。細則については今後理事会で検討し決定する予定です。

(2) 役員および組織の変更
今回は新理事の就任と事務局組織の改編を行いました。今まで毛屋嘉明副会長が兼務していた事務局長に田島満行理事を、併せて事

務局の担当職務を異動いたしました。また、松尾等会員に事務局員の業務をお願いするとともに会計補助も委嘱しました。

- 名譽顧問 黒田 長高
顧問 山崎 拓
顧問 中島 敏行
副会長 毛屋 嘉明
事務局 田島 満行
事務局長 田島 満行
総務 原 俊樹 浜田 泰祐
会計 篠原カズエ 秦 紀子
会 修 村松 伸哉 大島 泰治
研 報 天本 孝久 平田 善積
広 事 平山 芳子 馬頭 徹夫
理 山崎美美子 栗山 順子
近藤みさ子 森 純子新
田中 崇和(新) 田中 雅美新
監 事 木下 正 浜田 泰祐兼
事務局員 松尾 等(会計補助を兼務)

(3) 年間行事
黒田家墓所は平成二十六年四月一日より福岡市に寄贈されましたが、歴代藩主のご法要、春と夏の黒田家墓所の清掃・草刈りは例年どおり藤香会の主催で行います。市民の方々の参加を呼び掛けるため、広報にも力を入れます。

その他黒田家ゆかりの神社の例大祭への理事の参加、福岡藩にまつわる歴史を学ぶ勉強会、史跡めぐりを例年とお計画しています。

多数の会員の皆さまの出席をお願いします。

また、ホームページを充実させて、藤香会の理念や行事などの情報を発信して参ります。

(4) 報告事項
黒田家墓所の福岡市への寄贈と如水公の四一回御忌ご法要の報告がありました。特に如水公のご法要は大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映中であり、多くの報道関係者の取材の中で行われた一大プロジェクトでありました。

2. 卓 話

講師 福岡藩幕末史研究家
小河扶希子先生
テーマ 「福岡藩の幕末史」



野村望東尼の手紙(複数の手紙をつないだ原文)を示して、長州・薩摩に都合の良い部分を切り貼りして(改ざんして)、それがあたかも望東尼の一文のようになっており、結果的には福岡藩および藩士を貶めることになった。

十一代藩主長溥が世界情勢を正確に把握していたことにより、直截政治の断を下す。オランダ国王親書の受理にも立会い、内容を熟読して、幕府のアメリカ国書受理の諮問に対する建白書を提出した。各藩からも出されたが、長溥の上書のみが時宜にかなったものであった。

時間が少なかつたこともあって、会員には膨大な資料が配られました。また改めてゆっくりお話を拝聴したいとの意見も多くありました。

黒田忠之公ご法要

東長寺において二月十二日二代藩主忠之公はじめ、三代光之公、八代治高公のご法要を営みました。ご法要後の卓話で藤田紫雲老師は、他の藩主の墓所は臨済宗の崇福寺にあるのに、このご三方だけが真言宗の東長寺にあることについてお話をされました。

忠之公幼少の頃の訓育を真言宗のお坊さんが行ったことによること、光之公は忠之公に従って真言宗を信仰したこと、治高公は実家の四国丸亀の京極家が空海上人のおひざ元でもあって代々真言宗に帰依していたことによるとのお話でありました。

如水公 411 回ご法要と顕彰イベント

如水公の第四二一回御忌ご法要は、三月二十日小雨の降る肌寒い中、黒田家墓所で執り行われました。今年にはNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映中であり、趣向を凝らした法要となりました。如水公がキリシタン大名であったこと、当時キリスト教でも葬儀を行った記述があることから、カトリック福岡司教区のドミニコ宮原良治司教はじめ他の司教区団神父四名による幕前ミサ(命日祭)が聖歌隊のグレゴリオ聖歌の流れる中で執り行われました。

続いて崇福寺岩月海洞老師他七名の僧侶による風経のご法要が行われました。

キリスト教式と仏教式とで行われた法要はおそらく初めてのことでないかと思われます。

この模様は、地元新聞はもとよりカトリック新聞やテレビにも報じられましたので、ご存知の方も多いかと思えます。

引き続き、藤香会と官兵衛福岡プロジェクト協議会の共催による官兵衛顕彰イベントが幕前でありました。

小川洋福岡県知事、田口五朗NHK福岡放送局長をはじめ各界を代表しての挨拶に始まり、柳生新影流兵法柳心会宗家長岡鎮廣会員による四方払、陽流砲術

十六代継承者尾上城由江さんによる抱え大筒演技、講談師神田紅さんの「福岡藩祖黒田官兵衛(如水)」の講談があり、五〇〇名の観客が熱心に聞き入っていました。

長高様歓迎懇親会

タカクラホテル福岡に会場を移して、黒田長高様歓迎会が行われました。藤香会会員の参加者八十六名、小川洋知事をはじめ来賓十八名が出席して盛大に開催されました。ご法要を執り行っていた宮原良治司教、岩月海洞老師や高島宗一郎福岡市長、神田紅さんも参加されて和やかな懇親会となりました。

当日会員の中に、昭和十九年三月朝倉高等女学校の卒業時に品行端正、学業優等につき、黒田奨学会総裁の黒田長禮様より、賞状を授与された方がおられ、会場で披露されました。

黒田家墓所の福岡市への寄贈

三月十二日、黒田家墓所で黒田長高様より高島宗一郎福岡市長に寄贈書が贈呈され、平成二十六年四月一日から福岡市の管理することになりました。長高様は、平成八年に福岡市の史跡に指定されたところから黒田家が私有的より歴史的資産として福岡市民をはじめ多くの人に知っていただくためにも市に管理してもらったほうが良いというように考えてきたと話されました。

高島市長は、貴重なお宝を寄贈いただいた、これを機に市民の人たちに来てもらい、黒田家が築いた郷土福岡の歴史を知り、故郷を愛

してもらいたい。そして福岡市は、黒田家や藤香会の協力を得ながら、これを後世に大事に伝えてゆくことにしたと挨拶されました。

毛屋副会長がここに至るまでの経緯を詳しく説明されていますが、中島顧問の尽力の賜物と言っても過言ではありません。

私たち藤香会もこれを後世に伝えて行くよう、今まで以上に努力してゆく所存です。



右上は宮原良治司教(福岡教区)の司式によるカトリックの命日祭
左下は崇福寺(臨済宗)の僧侶による法要(如水公墓前)

官兵衛福岡プロジェクト協議会会長小川知事のあいさつ



講談師神田紅さんの「福岡藩祖黒田官兵衛」の熟演



左から小川福岡県知事、長高様、山崎会長、田口NHK福岡放送局長



長高様を囲んで恒例の「黒田節」合唱

編集後記 今年度より広報担当となり、初めての藤香会だよりの作成です。平田先輩に教わりながら読みやすい紙面にしてゆこうと思っています。どうかよろしくお願いします。(天本)

ホームページアドレス <http://toukoukai-kuroda.com/>